



よこはまユースレター

発行/公益財団法人よこはまユース
 tel.045-662-3716 fax.045-664-6254
 URL http://www.yokohama-youth.jp/
 Eメール soumu@yokohama-youth.jp

ありがとうございました 24年度寄附金 296件 1,157,390円

皆様のご理解とご協力に感謝いたします。主な用途は、学習マイプラン(ボランティアによる小・中学生学習支援事業)の充実や寄附金の用途指定事業など法人の自主事業の財源とさせていただきます。

【寄附項目別内訳】

ユース賛助会費	191件	798,000円
特定寄附金	合計 75件	1,34,000円
早期支援 SST プログラム		44,000円
野島クリスマスキャンプ		57,000円
ハートフルスペース連携事業		33,000円
一般寄附金	30件	225,390円

*早期支援 SST プログラムは今年度から、困難を抱える子どもたちへの「わくわく・生活体験プログラム」支援に変更し実施します。

なお、今年度は、陶芸用電気窯(青少年交流センターに設置)と、プラネタリウム用可動式ドーム(野島青少年研修センターに設置)の購入を計画しています。粘土をこね陶芸作品を作る、交流センター3階フロアから芸術家が誕生?? 可動式ドームでの星空プログラムは、小学生の体験学習に大活躍するでしょう!

青少年交流センター3階フロア 7月プレオープンイベント開催!

青少年交流センター3階の空きスペースが、青少年のものづくり、創作、表現活動の場として、今秋、オープンすることになりました。青少年を交えたスタッフが一丸となって検討・整備に取り組んでいます。7月にはフリーペインティング(絵の具落書き大会)を実施します。お楽しみに…。



法人経営も“健全育成”をめざします! 全事業81件をチェック: 総合評価 b

法人の全事業を見直し改善を図る事業評価を、平成24年度から本格導入しました。

課・施設ごとに評価を実施した結果、事業面は概ね良好でしたが、施設管理面は、稼働率など改善を要する事項が確認されました。また、事業の評価過程で様々な視点が検討され、24年度中から変更・改善を図っています。(変更例: 施設利用手続きの電子化、施設空き情報更新回数増)

総合評価ランク
 (評価点得点率)
 a=85%以上
 b=70%~84%
 c=50%~69%
 d=40%~49%
 e=39%以下

【各課・施設別総合評価ランク】

事業課	b 72%
寄り添い型支援事業やプログラム開発に意欲的に取り組んだ。	
総務課	b 70%
情報紙発行、賛助会費など寄附金募集強化に取り組んだ。	
青少年育成センター	b 72%
稼働率微増。人材養成研修が体系化された。	
青少年交流センター	c 68%
利用者数増、料金収入減少の構造的ジレンマ。	
野島青少年研修センター	c 67%
海そば施設立地の功罪、稼働率回復・向上対策強化を。	

事業評価とご協力を!

事業評価は、事業の実施過程や成果だけでなく、参加者・施設利用者皆さんの満足度も評価材料になります。事業参加・施設利用の際には、ぜひ調査にご協力ください。

「学習マイプラン」(学習支援事業)

(青少年交流センター/毎週火曜日 16~18時)

青少年交流センターで昨年7月末から週1回実施しています。小・中学生なら誰でも無料で参加することができ、今年5月末までの延べ参加者数は392人。当初は小学生がほとんどでしたが、現在は、主に中学生がボランティアと一緒に試験勉強や復習に取り組んでいます。

定期的に参加している中学3年生は「高校に進学したいけれど、学校の勉強に追いつけていないので、この勉強会ががんばっています」と話してくれました。

チーフボランティアの城山修さんに活動の魅力をおたずねしました。「子どもの『よかった!』という一言がとてもうれしい。子どもたちは自分の意思でこの勉強会に参加しています。だからこそ、継続して参加してくれていることは、ボランティアのやりがいにつながっています。子どもたちと対等の立場で関われることもおもしろいですね。」



横浜市野島青少年研修センター

“野島まごころプロジェクト 2013” がスタート！

センターが現在の200人規模になって、7月13日で20周年を迎えます。これまでに約55万人の皆様にご利用いただきました。4月からは“野島まごころプロジェクト 2013”と称して、来所する皆様を“まごころ”でお迎えする取り組みを進めています。その一環として、センターの顔であるビジターホールの周りに、ボランティアと一緒に季節の花を植えました。センターを利用する皆様をはじめ地域や公園を訪れた皆様にも「明るい印象になった」と喜ばれています。これからも職員の“まごころ”をお届けし、より多くの皆様に快く利用していただけるように努めます。



放課後キッズクラブ

サッカー初心者教室

能見台小キッズの人気プログラム。サッカー歴65年、少年サッカーチームの監督歴17年という富永邦雄コーチのご指導のおかげで、サッカーボールを蹴ることも初めてだった1年生も今は無心にボールを追っています。将来の日本代表が生まれるかも？！



横浜市青少年育成センター

広報・記録のための「デジカメ」写真入門講座 (6月7日)

「写真を見ると、イマイチ活気のある様子が伝わってこない…。こんな悩みを持つ、青少年活動や地域活動の広報担当者約40人が集まり、“伝わる”写真のポイントを学びました。カメラの構え方やアングルなどを学び、実際に外に出て撮影してみると以前とは全く違う、“様子が伝わる写真”が撮れました。



よこはまユース (本部事業)

「横浜市少年五団体の集い」に参加 (6月8・9日)

『横浜開港祭』イベントに、横浜市少年五団体とともにブースを出展しました。海に面した会場に因み、軍手で作った「イカ」を投げてエプロンでキャッチする、二人一組の玉入れのようなゲームを実施しました。このゲームは、投げ方も重要ですが、捕る側がどれだけ多く落とさずにキャッチできるかがポイントです。的から外れそうな「イカ」を、胸や肩、頭で受けてエプロンの内に収めようと、子どものために奮闘する保護者の姿も見られ、大盛況でした。



やる気・希望を…。かもん未来塾

西区の困難を抱える青少年のための寄り添い型事業を受託し、昨年11月にオープンしたかもん未来塾。この春、受験生2人が希望校に合格といううれしいニュースも…。現在は新たに4人の仲間が加わって13人の小・中学生が利用しています。子どもたちはかもん未来塾に来ると、宿題や予習、復習をしてからカードゲームや囲碁、将棋などをして過ごします。季節の節目には『卒業祝パーティー』や『柏餅作り』のほか、誕生日祝などの生活体験プログラムを行うこともあります。春休みには、皆様からのご支援で、法人主催のSST (ソーシャル・スキルズ・トレーニング) プログラムに7人が参加。集団で自然や社会を体験する活動を通して、子どもたちは一回り大きくなったようです。

半年余りのかもん未来塾での生活で、人と触れ合い、お互いに触発し合い、相手を思いやったコミュニケーションが取れるようになりました。中学生は、あきらめていた勉強もやってみたらできた！と、頑張った自分を認めて、学習に意欲を持つようになりました。

法人初！校外拠点で活動 本町小キッズ

児童数の増加に伴う校舎の増築工事中のため、今年度、本町小放課後キッズクラブは校外に拠点を設け、活動しています。当初はスタッフが校外拠点と学校を6往復することがあったり、校内のキッズルームとは異なる制約も多くあったりしましたが、保護者のご理解と運営方法の工夫で少しずつクリアしています！



▲校外拠点での「お母さんのお話会」

TOPIC いつもありがとうございます！

青少年育成センター受付に飾られた、四季折々の花にお気づきの方もいらっしゃるのでは？ 青少年育成センターの和室を利用し「子ども作法教室」を開催している『日本作法会』様が教室に飾った花をプレゼントしていただきます。その花を飾らせていただいています。ご自宅のお庭に咲いた花々だそうです。

